

諏訪小だより

令和5年4月28日
5月号
多摩市立諏訪小学校
校長 齋藤 幸之介

過日行いました引き取り訓練に際し、多大なるお力添えを頂戴し、誠にありがとうございました。お休みの中、また御仕事等お忙しい方も多数いらっしゃったかと思いますが、こと私には、今まで経験したことがないほどの引き取り率でした。自然災害等が起こらなければそれに越したことはありませんが、こうして年度当初に訓練ができたことはとても重要である、と捉えています。今後共御理解と御協力を賜りたく存じます。

離任式

さて、この「諏訪小だより5月号」が発行される4月28日には離任式を行います。3月末まで本校の教育活動に携わった教職員が子供たちとの最後の別れをする機会です。代表の子供たちが言葉を述べますが、例年思わず目頭が熱くなる場面が幾度となく訪れます。「会うは出会いの始め」などと言われます。また、「一期一会」も多く用いられ、出会ったことを大切に思いながら、日々にどれだけのことを尽くせたか、と思いを馳せます。だからこそ、子供たちの言葉は私共にとってとても有難くあります。

出会い

今から70年ほど前の教育内容は「科学」が特に重視され、これらを確実に身に

付けることを中心に目指してきました。しかし、内容を詰め込まれるがごとく取り組んだ子供たちは「窒息状態」になった、と評価される場合が出てきました。このことは、我が国だけでなく、世界のいくつかの国々でも切迫した問題として取り上げられました。

これを解決するために大切にされたことが「出会い」でした。価値ある一つの教育内容、特に具体的に学べる内容や活動に出会って学んだこと、その後の学習にも大いに生かされ、さらには自分を理解したり生活をよりよくしたりすることにもつながっていく、という考え方です。

その後、「出会い」は一層重視されるようになりました。

「人と出会う」こと

子供たちには厳しい言い方にもなりますが、ひよつとすると、離任した教職員と出会うのはこの式が最後かもしれません。改めて「何を学んだか」を振り返ってもらえたら、と思っています。同時に、新たに始まった学校生活の中での出会いの素晴らしさを子供たちが捉えられるようにしていきたい、と考えています。

参考：千葉県東金市立城西小学校（1978）「研究紀要 範例的学習によるゆとりある授業の創造

